

令和4年度

学校関係者評価アンケート

ま と め

世田谷区立瀬田中学校

もくじ

令和4年度 学校経営計画	1～4
【生徒】学校関係者評価アンケート集計結果 1・2・3年	5・6
【生徒】生徒アンケート回答分布と平均 肯定的・否定的・わからないTOP3	7
【保護者】学校関係者評価アンケート集計結果 1・2・3年	8・9
【保護者】保護者アンケート回答分布と平均 肯定的・否定的・わからないTOP3	10
【地域】学校関係者評価アンケート集計結果	11
【地域】地域アンケート回答分布と平均 肯定的・否定的・わからないTOP3	12
【教職員】教育活動に関する点検評価	13～16
学校自己評価報告書	17～20
学校関係者評価委員会 報告書	21～23
令和5年度に向けた改善策	24～26
前年度の改善方策について実施した改善結果	27～29



令和4年度 多摩川の学び舎 世田谷区立瀬田中学校学校経営計画

世田谷区立瀬田中学校長 本橋 智博



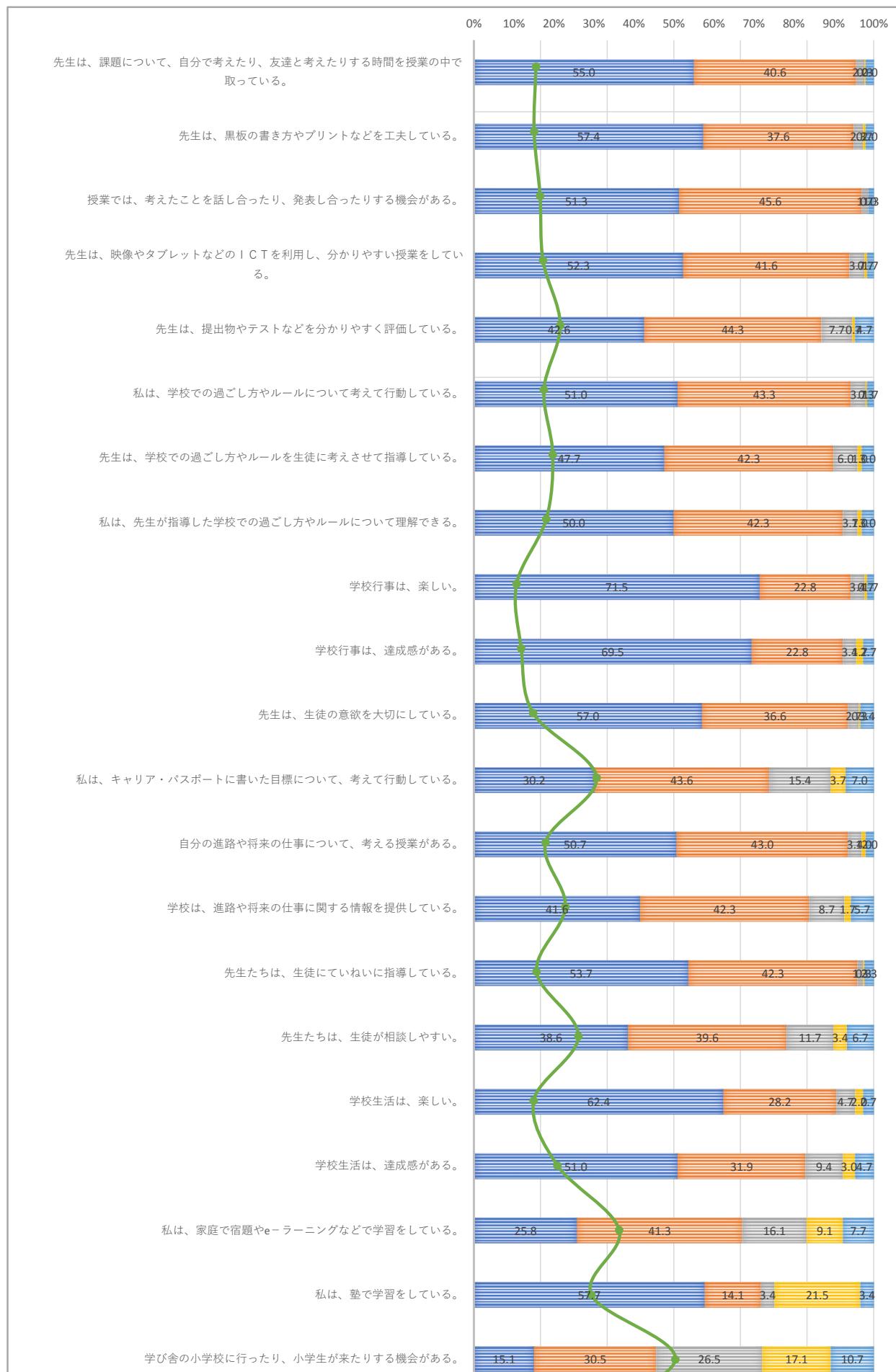
～生徒の夢の実現を支援する学校～

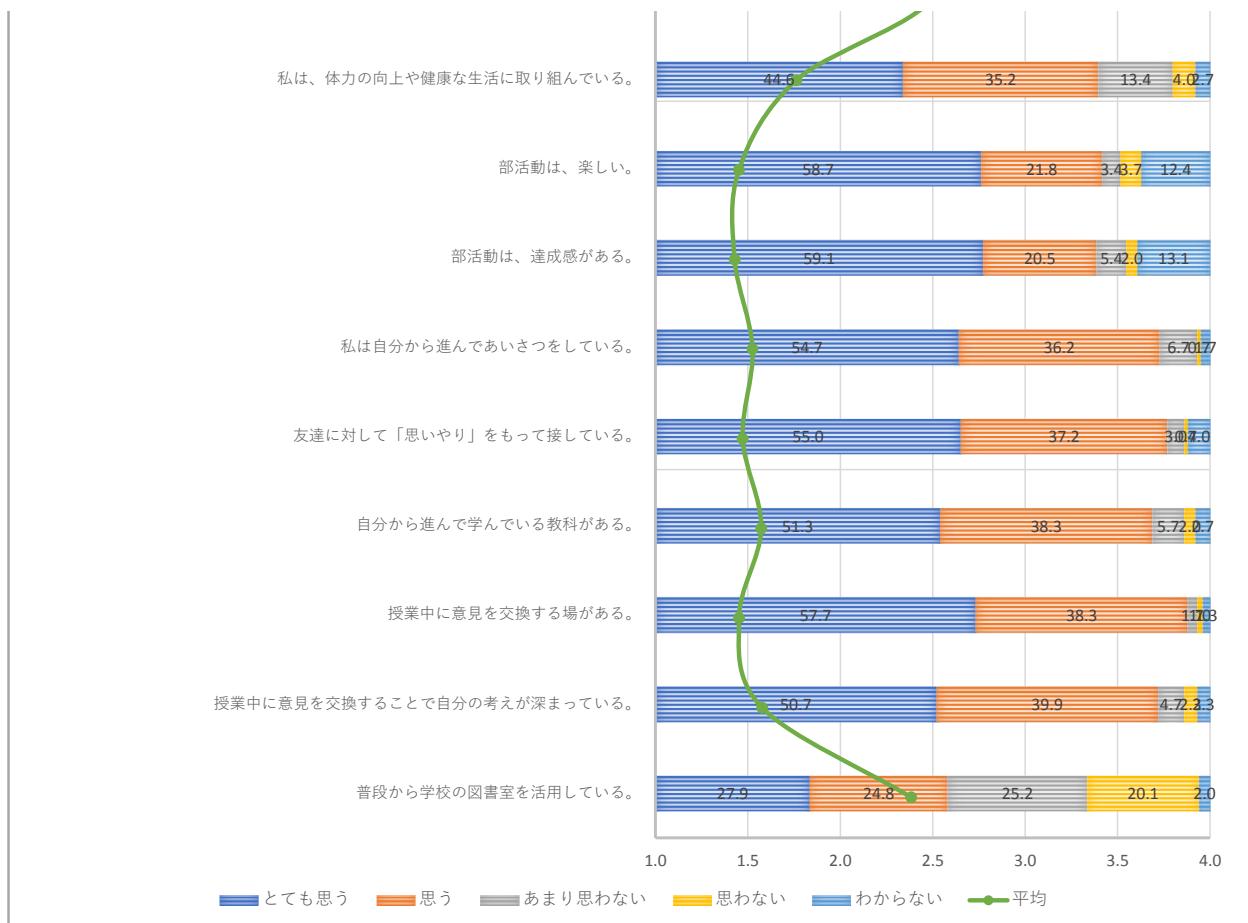
教育目標	一よき校風を継承し、豊かな心をもち行動力のある生徒の育成 ・学ぶ力・考える力を身につける ・お互いを認め合う中で自分のよさを知る ・地域・社会の一員として健全な心身を養う	
スローガン	瀬田中学校スローガン 「信頼と思いやり」	
目指す学校像	めざす学校像 ～生徒の夢の実現～ 生徒にとっても、教職員にとっても、生き生きと活動できる学校 1 生徒が生き生きと楽しく学び、活躍する学校 2 教職員が生き生きと働く学校 3 保護者・地域から愛され信頼される学校 「あいさつ」が響く学校	
めざす生徒像	めざす生徒像 明るく元気に楽しく 1 思いやりと、優しさのある生徒 2 前向きな姿勢で学び、何事もやりぬく生徒 3 正直さ、素直さを大切にする生徒	
めざす教師像	めざす教師像 服務には厳しく、人間関係は温かく 1 組織の一員として、共通の目標達成のためにチーム瀬田中として学校経営に参画する。 2 「生徒のため」を第一に、日々の教育活動に誠実に取り組み、自信と誇りと責任を持つ。 3 公務員（教育公務員）としての職責を果たし、保護者・地域社会の信託に応える。 4 専門職としての力量を高め、職務を通じて自己実現に努める。	
基本理念	<u>校長の基本的経営理念</u> 信 頼 〈生徒同士の信頼・生徒と教師との信頼・学校と保護者地域との信頼〉の醸成	
組織運営方針	1 会議時間の短縮、諸課題への迅速な対応を図るため、「企画委員会」は、各分掌主任・学年主任が出席し、行事や課題に対する連絡調整を図る。各主任は、必要に応じて関連分掌と調整し、議題を提出する。会議後は、所属分掌・学年職員に情報の周知を確実にする。 2 職員連絡会は、校長の方針等を周知・伝達、所属職員等の意見聴取、及び教職員が相互の連絡を図るために校長が実施する。各分掌からは、企画委員会で調整後の案件を伝達する。 3 管理職と教員、教員相互の報告・連絡・相談を徹底し、学年・分掌の情報交換を十分実施し、学校を組織として機能させ、きめこまかな生徒指導や保護者対応をする。 4 諸帳簿の確実な管理および提出により、教育課程の進行管理を適正に進める。 5 文書配布、予算執行、その他すべての教育活動は、起案決裁に基づき校内の意思決定を進める。 6 校務の円滑化・効率化や会議、打ち合わせ時間の短縮を図り、教員が生徒と関わる時間を増やす。	
中期的目標	1	第2次世田谷区教育ビジョンに基づき、「キャリア・未来デザイン教育」を推進し、ことばの力をはぐくみ、生徒に豊かな知力等を身に付けさせる。そのため、外部の専門家、保護者、関係者、教職員による授業の参観や評価を実施するとともに、研修を通して、今日求められる知力等を生徒に身に付けさせる教員の授業力の向上、生徒一人ひとりの特性に応じた指導の充実を図るとともに、生徒への組織的、計画的な指導・支援の充実を図る。

と 方 策	2	瀬田中スローガン「信頼と思いやり」を掲げ、生徒、保護者、地域、教員の信頼関係を深め、生徒の自己肯定感を高め、何事にも意欲を持つ教育活動を展開し、自他を大切にし、思いやりを大切にする心を育てる。
	3	基礎的・基本的な学力を定着させ、主体的・対話的で深い学びの充実を図るとともに、ICT・タブレットの活用を図り、「個別最適化した学習」を進め、課題の発見・解決を目指す探究的な学びができる力を育てる。
	4	社会の一員としての自覚を高め、心の教育を充実するため、生徒の「ボランティア活動」を積極的に進め、自己有用感や自尊感情を高めさせる。また、教員が研ぎ澄まされた人権感覚をもち、すべての教育活動に人権教育の視点を取り入れるとともに、道徳教育の一層の充実を図る。
	5	体験活動や外部講師を活用した教育活動等、3年間を見通した、組織的・計画的なキャリア教育・進路指導を充実させる。また進路実績向上のため、進学対策や高校との連携を積極的に推進する。
	6	「多摩川の学び舎」として、相互の授業見学、合同研修会等の連携をすすめ、生徒の「学ぶ意欲」・「豊かな心」・「健康な体」の育成のため「キャリア・未来デザイン教育」を推進し、義務教育修了段階の姿に責任をもつ。
	7	安全・安心な学校づくりのため、生徒の諸状況の把握、日常の施設点検や速やかな改善を進める。防災訓練や、避難所の運営や災害時の緊急対応、不審者対策について万全の準備を進める。
	8	地域とともに子どもを育てる教育の推進のため、生徒を地域行事にボランティアとして積極的に参加させる。また、学校運営委員や地域人材の協力を得て、各種検定の実施を行う。
	○は 数 値 目 標	<p>○確かな学力をもとにした探究的な学習の実現</p> <p>○基礎的・基本的な学力を定着させ、主体的対話的で深い学びの充実を図り、課題解決能力を育てる。</p> <p>○「先生は課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取りっている。」「授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。」を90%以上にする。</p> <p>○ICTの活用を進め、タブレットを利用し個別最適化した学習を進めるとともに、補充的な学習、発達の特性をとらえた指導を進める。</p> <p>○「先生は映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」を90%以上にする。</p>
重 点 目 標	○多 様 性 の 育 成	<p>○多様性を尊重する豊かな人間性の育成</p> <p>○「学校生活は楽しい」を90%以上にする。</p> <p>○「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考え方で指導している。」を90%以上にする。</p> <p>○「友達に対して思いやりをもって接している。」を80%以上にする。</p>
重 点 目 標	○自 分 自 身 が 思 い 描 く 未 来 を 実 現 可 能 な 人 材 の 育 成	<p>○「キャリア・未来デザイン教育」を念頭に地域の教育資源を活用し、特色あるキャリア教育の展開をもとに自らの思い描く未来の実現に向けて進路を自ら決めていくことができる指導の充実を図る。</p> <p>○「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」を80%以上にする。</p>
〔その他の数値目標〕		
【生活指導について】		
<p>○「私は学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」と思う生徒を90%以上にする。</p> <p>○「私は自分から進んであいさつをしている。」を90%以上にする。</p>		
【地域連携の充実】		
○「地域との連携について」の各設問の肯定的評価を60%以上にする。		
【ICT活用教育実践校の推進】		
○生徒の思考力を高める授業開発・ICTの活用・授業改善に努め、研究授業・研修会を年3回以上行う。		
4 年 学	① すべての授業で授業規律を確立し、第2次世田谷区教育ビジョンに基づき、「本時のねらい」や指導目標を明示し、生徒が学習の見通しを立て、「まとめ」を行い、学習のふり返りを行うように授業を展開する。 ② 主体的対話的で深い学びの実現のために言語活動やグループ学習を意図的に取り入れ、課題解決的な学習を進める。	

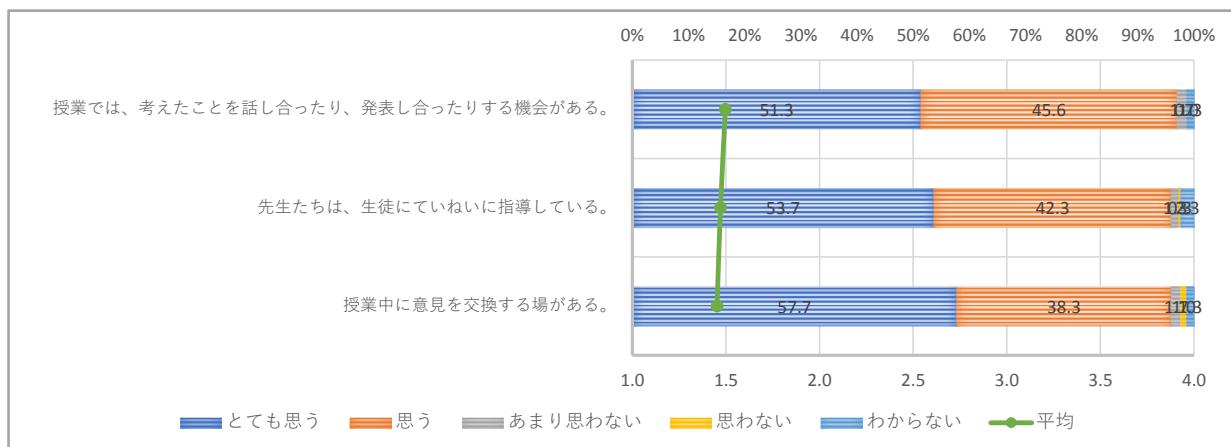
度の取組目標と方策	<p>習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ ICTを活用し、基礎的・基本的な学力を定着させ、主体的・対話的で深い学びの充実を図り、課題の発見・解決を目指すがや探究的な学びに向けた授業改善を行う。 ④ 一人一台のタブレット端末、AI型教材 Qubena（キュビナ）を活用した学習活動の充実を図り、「個別最適化した学習」を目指す。 ⑤ 小学校段階での課題や中学校進学上の課題を把握し、それを踏まえ、義務教育9年間を見通した、生徒の学力保証のできる授業力の向上を図る。 ⑥ 特別支援教育の理解とユニバーサルデザインの視点により、特別な支援が必要な生徒の共通理解として学校生活支援シートや個別指導計画を作成し、その活用を通して、学力の向上を図る。 ⑦ ICT、学校図書館、社会教育施設等の活用を取り入れ、プレゼンテーション技能を高め、他者と協働して課題解決を図る力を育てるとともに、主体的に自己表現できるたくましく生きる力を育成する。 ⑧ 生徒と保護者に評価計画一覧と学習指導要領に則った年間指導計画を配布する。 ⑨ 放課後、夏季休業中、定期考査前の補習や質問教室など、教育課程外の学習時間の確保に努めるとともに、学生ボランティアを活用、AI型教材 Qubena（キュビナ）の利用を通じ、支援の充実をめざす。 ⑩ 教科「日本語」の指導の充実を図り、豊かな表現力や論理的に考える力を育成するとともに日本の文化や伝統に接する 機会を設け、デジタル補助教材も活用し、伝統文化に愛着をもたせ、守り継承していくことの意義を理解させる。 ⑪ 「特別の教科 道徳」の時間を要として教育活動全体を通して、よりよく生きるために基盤となる道徳性を養い、人間尊重の精神や、社会生活の中で規範意識を養うため、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。また、道徳授業地区公開講座を活用して、保護者、地域とともに子どもを育てる体制の基盤づくりを推進する。 ⑫ 多様性への適切な理解を深め、尊重するとともに、認知症センター養成講座等を実施するなど体験活動を積極的に取り入れ、人権感覚の育成を図る。 ⑬ 生徒に、学年に見合った家庭学習の習慣（学年×1時間）を身に付けさせる。
生活指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 濑田中学校スローガン「信頼と思いやり」を掲げ、他人を思いやる気持ちと自己有用感を育て、生徒同士の信頼、生徒と教職員の信頼、教職員同士の信頼、保護者からの信頼、地域からの信頼を高める。 ② 「あいさつ」が響く学校を合言葉に、朝礼の黙礼の奨励とともにあいさつ・礼への意識を高める。 ③ 「ルールやマナーを守る」、「時間を守る」、「身なりを整える」、「正しい言葉づかいをする」、「清掃を大切にする」という生活指導の基本を徹底し、集団生活に必要な規範意識や役割意識、責任感、思いやり、正義感、共感する心を全教職員で定着させ、規律あるよりよい校風をつくる。 ④ 生徒指導に関する情報交換を密にして、組織的・計画的で、共通理解に基づいた一貫性のある指導を徹底する。また、生徒が自己の言動や行動を振り返りながら学校生活に臨み、規範意識を高めることができるように親身な指導を推進する。 ⑤ 「瀬田中学校いじめ防止基本方針」に基づき、全校的な指導体制を充実させ、生徒の個性を尊重し思いやりの心を育む指導を進め、ふれあい月間のアンケートや日常の教育活動を通じ、いじめの未然防止と早期発見、早期解決を図る。 ⑥ 生徒会・委員会を活用した校内環境整備やボランティア活動を推進する。 ⑦ 「ネットリテラシー醸成講座」を実施し、インターネット・SNS・タブレットの上手な活用の仕方や被害防止について学ぶことにより、生徒のネットリテラシーの醸成を図る。 ⑧ スクールカウンセラーとの連携を密にし、「不登校」の生徒や保護者の対応について意見交換や情報交換を行い、不登校の改善を図る。 ⑨ 3年間を見通した全体計画をもとに「キャリア・未来デザイン教育」を進め、自らの将来像を描き、自らの進路を自ら決めていくことができるキャリア教育の充実を図る。 ⑩ キャリア・パスポートを活用しながら自己理解を深めると共に、対話的にかかわる中で生徒が自己理解、自己管理能力を高め、キャリアプランニング能力を高める力を育成する。
特色ある教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 特別支援校内委員会を中心に、特別な配慮を必要とする生徒について、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーとともに、情報交換を行い、支援の具体的方法について検討し、支援を進める。 ② 地域ボランティアを通して地域社会の一員としての自覚を深め、「ボランティアマインド」の育成を図るとともに、地域から認められる存在として自己肯定感と自己実現を図り、持続可能な

	<p>社会の創り手を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 学び舎グループの小学校と連携を深め、「多摩川の学び舎スタンダード」をすすめる。 ④ 中学生が小学校の運動会にボランティアで参加したり、中学校の学芸発表会で小学生が合唱披露を行ったりするなど、行事を通じた児童・生徒間交流を盛んにし、瀬田中学校の生徒、瀬田中学校の教育活動の魅力を発信するとともに地域の一員としての連帯感の強化を図る。 ⑤ 近隣高校との積極的な連携をすすめるとともに、進学意欲の向上をめざして、「卒業生の話を聞く会」「合同説明会 in 瀬田中」「進学対策講座（小論文、集団討論）」などを実施する。 ⑥ 数学、英語では、少人数指導を実施し、個々の生徒の学力の伸長を図る。 ⑦ 校内外の美化活動を通じて、奉仕の心と美化の心を養う。 ⑧ 2020レガシーとして、これまで学んできたオリンピック・パラリンピック教育の内容を各教科や諸活動で活用するとともに、「ボランティアマインド」の育成をさらに進め、地域社会の一員としての自覚を深め、地域から認められる存在として自己肯定感と自己実現を図り、持続可能な社会の創り手を育てる。 ⑨ SDGsについての基本的な考え方を各教科や特別活動で培い、環境美化活動や、省エネ活動など身近な問題から、環境保護について考えさせるなど、その推進に取り組む。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内の安全管理について全教職員で点検して、不備箇所の早期発見・改善に努める。 ② 自然災害、人的災害に適切に対応するため、様々な状況を想定した安全指導、避難訓練等を実施する。 ③ 地域と連携した、避難訓練、避難所運営訓練などで、総合的な防災対策を進める。 ④ インターネットや携帯電話のトラブル及びネット犯罪等の未然防止の指導を、家庭と連携して継続的に実施する。携帯・スマートフォン瀬田中推奨ルールの活用。
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 「世田谷区立中学校における部活動の方針」に則った「本校部活動に関する活動方針」に基づく指導を展開する。 ② 部活動指導ではチームとして取り組むことの大切さや仲間・相手を敬う気持ちや態度を重視し、生徒が主体となって活動する指導を行う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ① すべての生徒が落ち着いて学習に取り組むことのできる学習環境整備の充実を図る。 ② 保有する施設を有効に利用するための整備と改修を推進する。瀬田小学校校舎改築に伴う本校教室の利用について最優先課題として整備を推進し、新BOPの受け入れや瀬田小学校関連行事との調整を図る。 ③ 地域運営学校として、月一回の学校運営委員会を開催し、地域との情報交換、学校運営状況の発信をし、地域に根差した学校運営を進める。

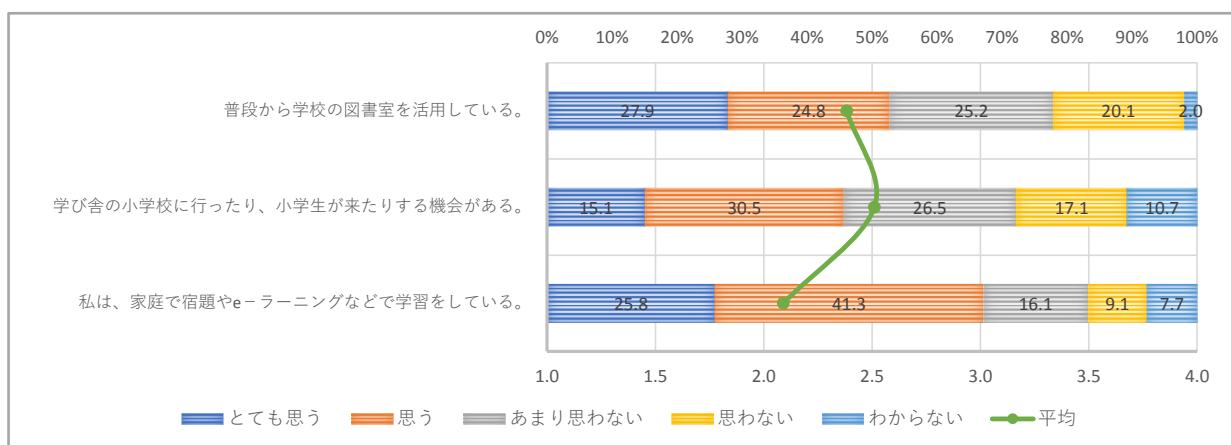




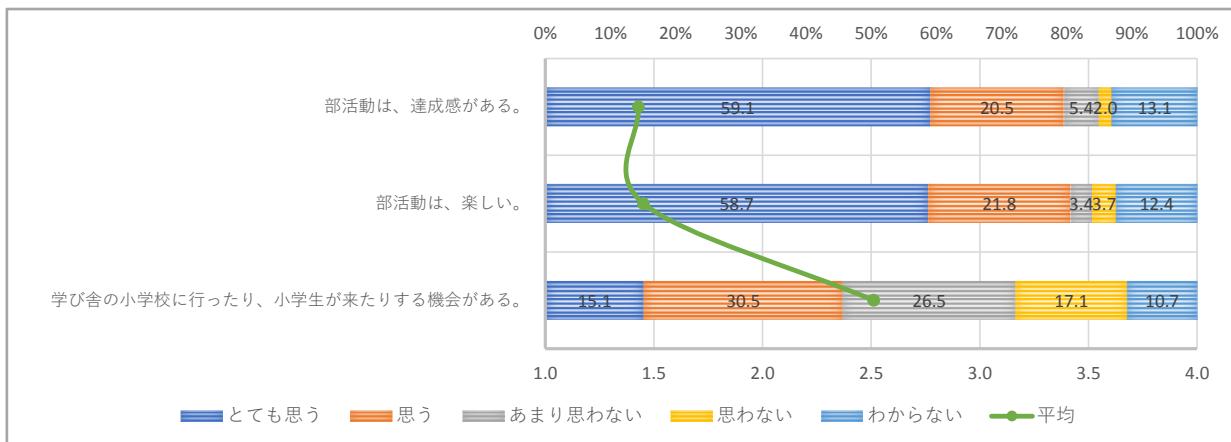
肯定的回答（「とても思う」「思う」の多かった項目）

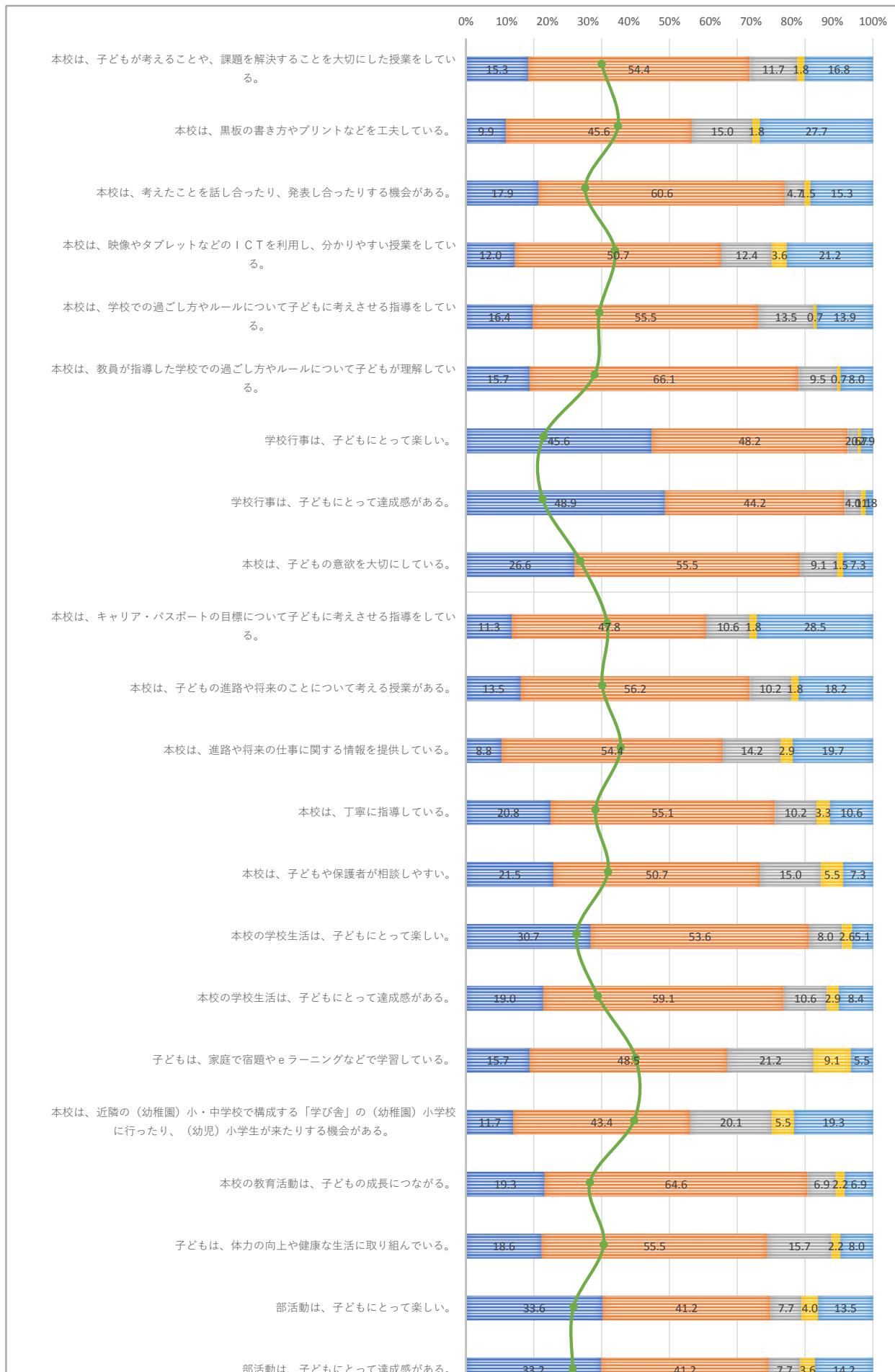


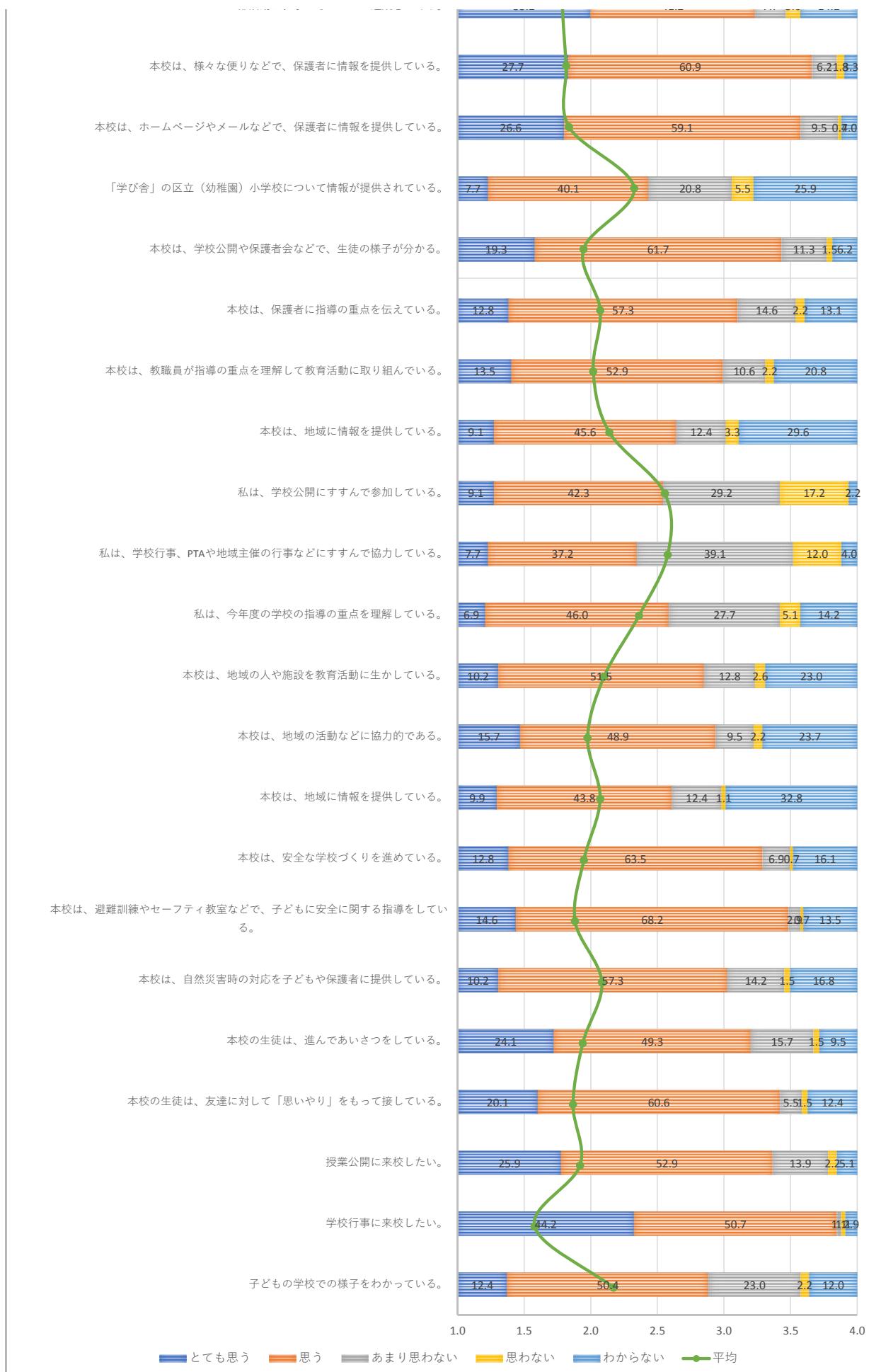
否定的回答（「あまり思わない」「思わない」の多かった項目）



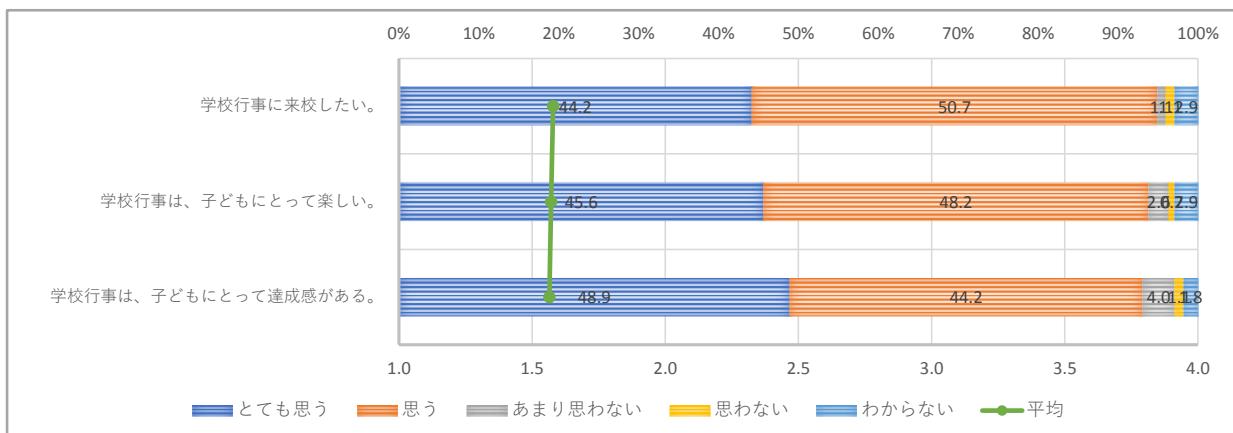
「わからない」という回答が多かった項目



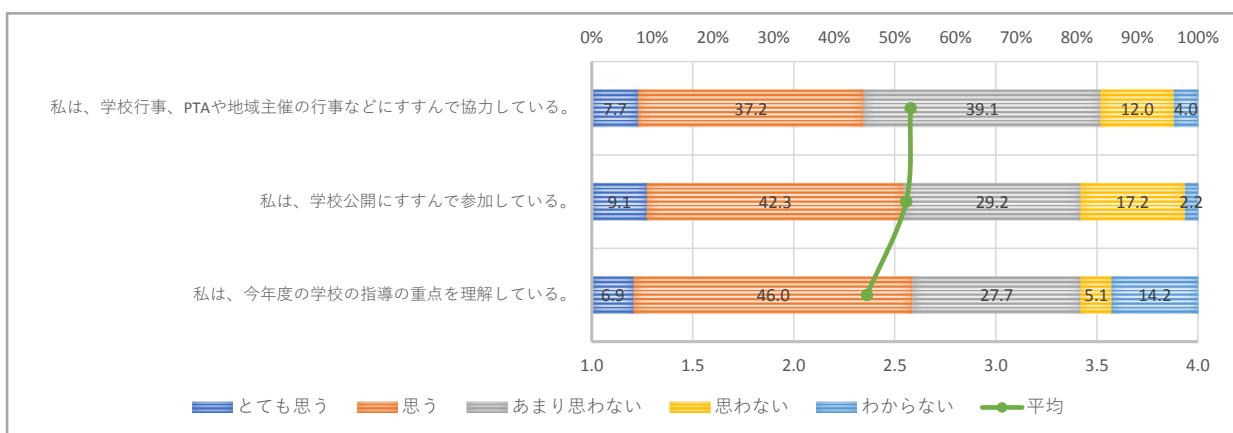




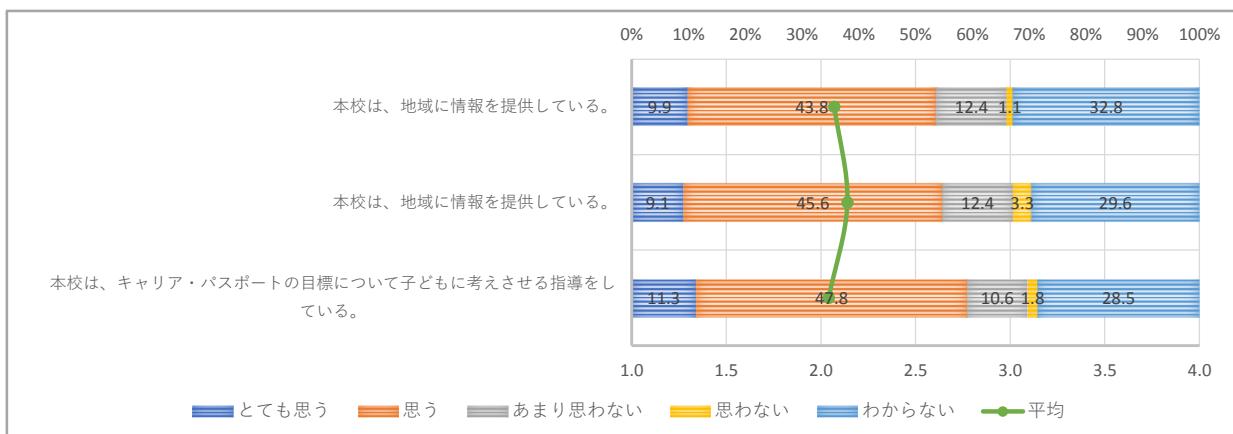
肯定的回答（「とても思う」「思う」の多かった項目）

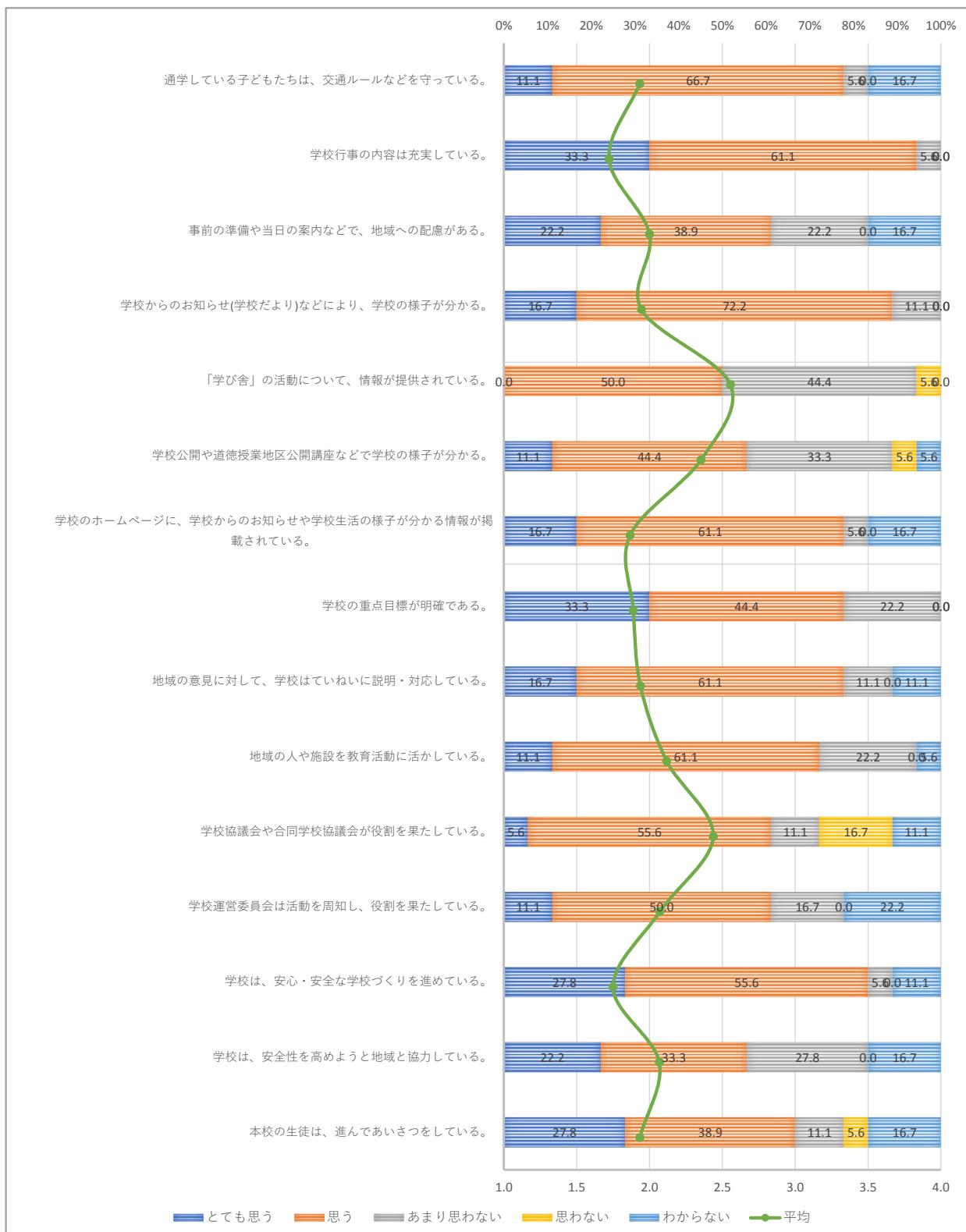


否定的回答（「あまり思わない」「思わない」の多かった項目）

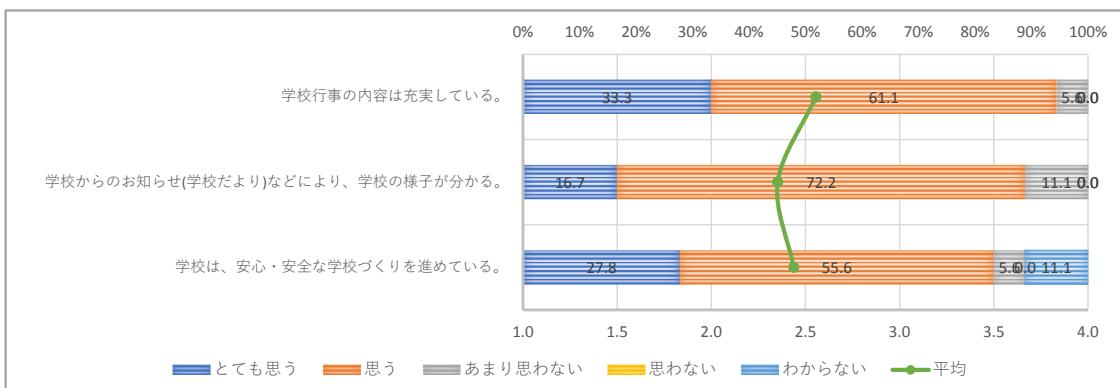


「わからない」という回答が多かった項目

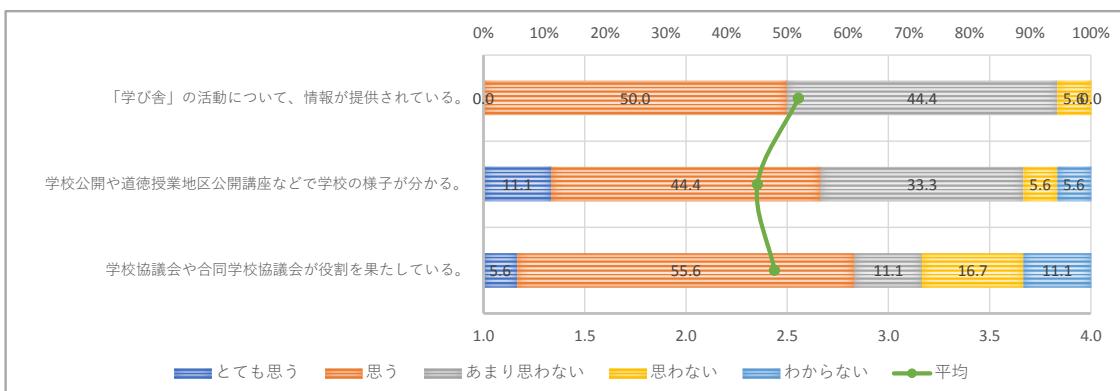




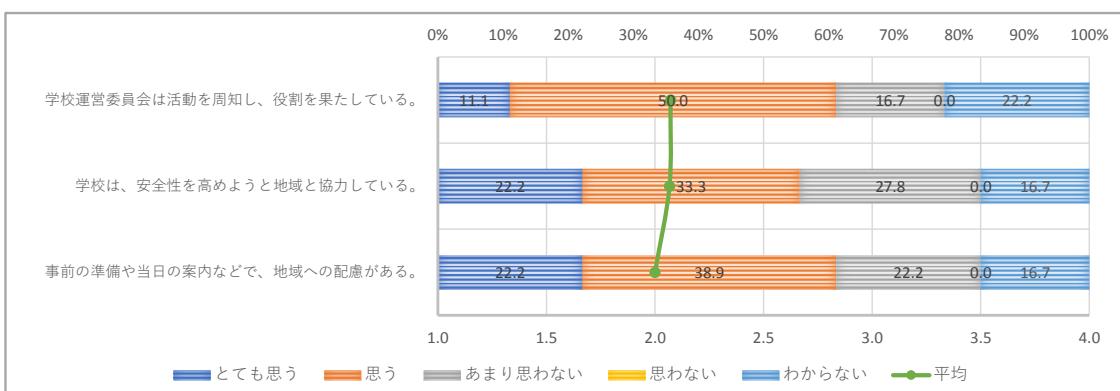
肯定的回答（「とても思う」「思う」の多かった項目）



否定的回答（「あまり思わない」「思わない」の多かった項目）



「わからない」という回答が多かった項目



令和4年度 教育活動に関する「自己評価」

A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:思わない

I 前年度「学校関係者アンケート」「自己評価」の結果を踏まえての重点目標

【重点1】確かな学力をもとにした探究的な学力の実現

【重点2】誰一人置き去りにしない教育の推進

【重点3】多様性を尊重する豊かな人間性の育成

回収 18 回収 18

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
重点目標	1	前年度の学校評価から明らかになった課題や、生徒の実態・保護者等の願いを踏まえ、学校は適正な目標を明確に設定している。	10	8	100.0%	4	14	100.0%
	2	教職員は重点目標を共通理解している。	8	10	100.0%	4	14	100.0%
	3	保護者・地域の方へ重点目標を十分に説明している。	8	10	100.0%	4	14	100.0%
	4	重点目標に沿った取組が、計画的に進められている。	7	11	100.0%	3	15	100.0%

II 地域と共に子どもを育てる教育

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
広報活動	5	保護者や地域の方に対して、教育活動や情報を積極的に発信している。	11	7	100.0%	8	10	100.0%
情報提供	6	教育活動を保護者や地域の方に積極的に公開している。	12	6	100.0%	5	11	88.9%
地域連携	7	保護者・地域と連携し、ていねいに対応している。	11	7	100.0%	9	9	100.0%
学校協議会	8	学校協議会の活動が活発に行われている。	11	7	100.0%	6	12	100.0%
PTA活動	9	PTA活動が活発に行われている。	12	6	100.0%	13	5	100.0%
家庭教育支援	10	家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	8	10	100.0%	5	13	100.0%

III 未来を担う子どもたちを育てる教育

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
教育課程	11	学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。 【教育課程の編成】	10	8	100.0%	6	12	100.0%
	12	教育課程の管理が適切に行われている。 【教育課程の管理】	11	7	100.0%	7	11	100.0%
	13	生徒の実態に即した週時程になっている。 【授業時数】	12	6	100.0%	6	11	94.4%
	14	各教科の年間授業時数の確保に努めている。 【授業時数】	13	5	100.0%	7	11	100.0%
教育目標等	15	教育目標を達成するための基本方針は生徒の実態等をふまえている。	12	6	100.0%	7	11	100.0%

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
学習指導	16	年間指導計画に基づいた指導をしている。 【指導計画】	13	5	100.0%	7	11	100.0%
	17	本時のねらいを明確にし、ねらいに合った授業を実践している。 【指導の工夫】	13	5	100.0%	7	10	94.4%
	18	授業のP D C Aを実践し、自身の授業力の向上に努めている。 【指導の工夫】	12	6	100.0%	5	13	100.0%
	19	基礎的・基本的な学力の習得を図ることができた。 【指導の工夫】	7	11	100.0%	5	12	94.4%
	20	授業の中で生徒の思考を働かせる学習内容、時間の設定を意図的に行った。 【指導の工夫】	13	5	100.0%	6	12	100.0%
	21	授業の中で「思考」→「互いの意見の交換」→「思考・理解の広がりの自己評価」の流れを意識した。	10	8	100.0%	5	13	94.4%
	22	評価規準・基準を明確にして評価している。 【評価】	11	7	100.0%	4	13	94.4%
	23	説明責任を果たせる具体的な評価基準を設定して、適正に評価している。 【評価】	12	6	100.0%	6	11	94.4%
	24	情報機器の積極的な活用がなされている。 【教材・教具、施設の活用】	13	5	100.0%	8	8	88.9%
	25	施設・設備は有効に活用されている。 【教材・教具、施設の活用】	11	7	100.0%	7	11	100.0%
教科「日本語」	26	年間指導計画に基づく指導をしている。	9	9	100.0%	3	15	100.0%
	27	深く考え、自分を表現し、日本文化を理解し大切にする生徒を育成している。	9	9	100.0%	3	15	100.0%
生活指導	28	生活指導について組織的かつ迅速に取り組んでいる。	13	5	100.0%	7	10	94.4%
	29	保護者等からの相談に誠実に対応している。	13	5	100.0%	11	7	100.0%
道徳	30	年間指導計画に基づく指導がなされている。	11	7	100.0%	4	14	94.1%
	31	生徒は、道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	12	6	100.0%	4	14	100.0%
特別活動	32	年間指導計画に基づく指導をしている。	14	4	100.0%	5	13	100.0%
	33	生徒の自主的・実践的な態度が育っている。	13	5	100.0%	6	12	100.0%
総合的な学習の時間	34	年間指導計画に基づく指導をしている。	13	5	100.0%	4	14	100.0%
	35	明確な評価基準に基づいて、評価を適切に行っている。	11	7	100.0%	5	13	100.0%
学校行事	36	学校行事の準備・練習は適切に行われている。	13	5	100.0%	7	11	94.1%
	37	学校行事の工夫・改善がすすめられている。	12	6	100.0%	8	10	94.1%
健康体力	38	食育の推進に計画的に取り組んでいる。	12	6	100.0%	8	10	100.0%
特色ある教育	39	地域人材を活用した様々な学習や体験学習を実施している。	9	9	100.0%	6	12	100.0%
	40	生徒の実態や地域、学校の実態に応じた取り組みをしている。	11	7	100.0%	4	14	100.0%

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
進路指導	41	キャリア教育が適切に実施されている。	14	4	100.0%	6	12	100.0%
	42	進路指導について組織的な体制が整備されている。	14	4	100.0%	4	14	100.0%
特別支援教育	43	校内体制が整備され、特別支援教育が機能している。	11	7	100.0%	5	13	100.0%
	44	スクールカウンセラーや教育相談室・関係機関と連携している。	14	4	100.0%	9	9	100.0%
部活動	45	部活動の実施体制が適切であり、活発に行われている。	8	10	100.0%	3	13	89.9%

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
学校運営 学校経営	46	校長の経営方針は明確に示されている。	13	5	100.0%	8	10	100.0%
	47	校長のリーダシップは發揮されている。	12	6	100.0%	5	9	77.8%
	48	校務分掌は適切に分担されている。	7	11	100.0%	3	11	77.8%
	49	事故、災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	11	7	100.0%	5	12	94.1%
学校評価	50	学校評価は適切に実施されている。	11	7	100.0%	5	13	100.0%
教職員	51	課題意識や教員としての悩みを気軽に話し合える職場となっている。	8	9	94.4%	1	12	72.2%
	52	教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	11	7	100.0%	2	16	100.0%
	53	教職員は社会人としてのマナーを身に付けている	8	10	100.0%	3	13	88.9%
研究・研修	54	校内研究会・研修会が充実している。	12	6	100.0%	3	14	94.4%
	55	校内研究が授業力向上、日々の授業改善につながっている。	14	4	100.0%	3	14	94.4%
保健管理	56	日常の健康観察や健康診断等を適切に行っている。	12	6	100.0%	9	8	94.4%
安全管理	57	犯罪被害防止・安全指導等を機会をとらえて行い、安全管理をしている。	13	5	100.0%	6	12	100.0%

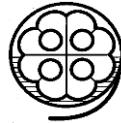
V 教育環境の整備

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
施設・設備	58	学校の教育環境は整備されている。	6	10	88.9%	1	13	77.8%
	59	日常的な施設、設備の点検や管理を適切に行っている。	9	9	100.0%	4	14	100.0%
出納・経理	60	予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	9	9	100.0%	8	10	100.0%
	61	私費会計の徴収・会計処理を適正に行っている。	12	6	100.0%	8	10	100.0%

中項目	No.	診断内容	R04肯定的評価 A・Bの人数と割合			R03肯定的評価 A・Bの人数と割合		
			A	B	%	A	B	%
文書管理 情報管理	62	公文書の処理は適切に行われている	12	6	100.0%	4	14	100.0%
	63	指導要録等の記入・点検・整理を適切に行っている。	11	7	100.0%	4	14	100.0%
	64	個人情報を管理システム機能によって適切に管理している。	12	6	100.0%	4	14	100.0%
	65	パソコンによる校務を適切に行っている。	13	5	100.0%	5	13	100.0%



令和4年度世田谷区立瀬田中学校 学校自己評価報告書



校長 本橋 智博

お忙しい中、ご回答ありがとうございました。今年度よりWEBアンケートでの実施になりました。
御協力ありがとうございました。

1 重点目標の評価

(1) 学習指導（確かな学力をもとにした探究的な学習の実現）

学習指導にかかる生徒5項目、保護者4項目において、生徒の肯定回答率の平均は93.7%（前年度90.6%）、保護者は66.6%（前年度68.6%）であった。話し合い活動やICTの活用での授業改善を進めていることが生徒の肯定的評価につながっていると考える。保護者においてはわからないという回答が一定程度いることと、生徒の評価、評定への不安が示されていると考える。学習指導要領の改訂に伴う授業改善をさらに進める必要がある。また、評価、評定への理解を進める研修も続けていく必要がある。探究的な学びを進める授業改善を進めていく。

(2) 生活指導（規範意識の醸成）

生活指導にかかる生徒3項目、保護者2項目において、生徒の肯定回答率の平均は92.2%前年度（90.2%）であり、保護者の平均は76.9%（前年度79.1%）であった。保護者の評価は若干下がっているが、生徒はルールやマナーを守ろうとする意識を育てている。保護者のわからないの回答、学年による差を解消することが大切である。地域の「通学している子どもたちは、交通ルールを守っている。」の肯定回答率は77.8%（前年度88%）であった。連続して数値が下がっている。回答方法による回収率の問題か、登下校などの交通ルールについてか両方の面を考慮して指導していく。

(3) 進路指導（キャリア・未来デザイン教育の推進）

進路指導にかかる生徒3項目、保護者4項目において、生徒の肯定的回答率の平均は83.8%（前年度71.4%）、保護者では64%（前年度60.4%）であった。キャリア・パスポートの活用は進める必要がある。職場体験学習の再開、積極的な周知などプラスの要因があったと思われる。

(4) その他〈地域との連携〉

地域との連携を図る場面として地域清掃や、地域運動会へのボランティア活動など、少しづつ再開をしている。地域への貢献をする場面をさらに再開していく、地域連携を図っていく。

2 地域とともに子どもを育てる教育の評価

(1) 保護者・地域連携・学校協議会・PTA活動・家庭教育について

地域との連携にかかる保護者、地域3項目において、肯定回答率の平均は、保護者60%（前年度55.5%）、地域64.8%（前年度50.1%）である。地域連携の行事の再開が始まり、少しづつ数値が回復している。さらに再開できる活動を増やし、保護者・地域の方々に、情報を提供しながら、連携の活動を進めていく。

(2) 広報・情報提供について

広報・情報提供の項目における肯定回答率の平均において、保護者は75.8%（前年度80.5%）地域は68.1%（前年度68.0%）であった。学校だよりや、ホームページなど充実を進めているが、やや数値が下がっている原因が推定できないが、さらに、ホームページの充実等を進めていく。

3 未来を担う子どもを育てる教育について

(1) 学習指導について

学習指導について生徒の肯定回答率は、5項目すべてで80%以上の高い評価、90%以上が4項目であった。ICTの利用は93.9%（前年度89.7%）でICT活用教育実践校として実践を重ねている成果ととらえている。また、保護者の4項目の肯定回答率の平均は66.6%（前年度68.6%）であり、若干数値が下がった。わからないの評価を減らすこと、黒板やノートの使用方法の工夫が必要である。学力を伸ばすわかりやすい授業、深い学びに通じる授業改善を進める。

(2) 生活指導について

生活指導についての3項目は、すべて90%（前年度88%）以上の高い数値である。「学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」は94.3%（前年度91.2%）で、今年度も生徒がルールについてよく考え行動しており、学校の落ち着いた雰囲気を継続させていることと一致している。保護者の「学校での過ごし方やルールについて子供に考えさせる指導をしている」の肯定回答率は71.9%（前年度74.7%）であり、やや数値が下がっている。学校の様子が十分に伝えられないことも原因となっていると思われるが、学年による差をなくす工夫が必要である。具体的な生徒への指導を通じて保護者理解を深める努力をしていくことが肝要である。「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて理解している」は生徒92.3%（前年度90.6%）、保護者81.8%（前年度83.4%）となっており、理解を伴った生活指導を引き続き進めていく。

(3) キャリア教育（進路指導）について

今年度生徒、保護者の数字が前年度より上昇した。職場体験の再開や、積極的な情報提供がある程度伝わったと考える。キャリア・パスポートを活用した進路指導、キャリア教育、進学指導の充実を引き続き図っていく。また、自己理解や職業講話とともに、高等学校の出前授業、先輩に話を聞く会、論文教室など、進学に焦点を当てた活動も進めしていく。

(4) 学校行事・部活動について

学校行事についての3項目において、肯定回答率の平均は生徒93.4%（前年度91.9%）、保護者89.7%（前年度89.9%）であり今年度も高い数値となった。新型コロナウイルス対応の中で、運動会、合唱コンクール、修学旅行、移動教室などを前向きに実施したことが表れだと思われる。

部活動についての2項目は、肯定回答率の平均は生徒80.1%（前年度77.9%）保護者74.6%（前年度78.1%）であった。引き続き、生徒が主体的に取り組む部活動を推進する。

(5) その他

生徒の「先生たちは、生徒にていねいに指導している」の肯定回答率は96%（前年度93.3%）、「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の肯定回答率は、78.2%（前年度72.9%）である。スローガン「信頼と思いやり」の基本は生徒との信頼関係である。さらに、ていねいな指導、相談しやすい教員を目指し、生徒との接し方を考えていく。

保護者の「本校は、ていねいに指導している」の肯定回答率は75.9%（前年度80%）、「本校は、子供や保護者が相談しやすい」の肯定回答率は72.2%（前年度78.4%）であった。生徒と異なり数値が下がっている。保護者との間でも相互理解を深め、生徒へのていねいな指導が伝わるように地道に信頼関係を築いていく。

4 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

(1) 学校経営

「保護者に指導の重点を伝えている」の保護者の肯定回答率は70.1%（前年度73.2%）、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる。」の保護者の肯定回答率は66.4%（前年度73.9%）であった。指導の重点についての周知は進んできたと思われたが、保護者の評価につながらなかつた。学校経営案などの周知に努め、その状況を伝える工夫をすることが必要である。地域の「学校の重点目標が明確である」の肯定回答率は77.7%（前年度80%）であり、「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」の地域の肯定回答率は77.8%（前年度60%）であり、学校の目指すところが一定程度地域にも伝わり、再開しつつあるボランティア活動等で、地域との交流が再開したことで学校の対応も一定の評価を得られるようになってきた。さらに地域での活動を再開していく。

5 教育環境の整備

(1) 安全面・施設・設備

学校の安全性にかかわる3項目において、保護者の肯定回答率の平均は、75.6%（前年度81.9%）、地域住民は69.45%（前年度76%）である。肯定回答率は低下が続いている。自然災害時の対応の評価、地域との協力の項目が低下している。地域との防災訓練が未実施のことが数値に表れている。自然災害の対応について積極的な取り組みをしていく必要がある。

6 数値目標の達成状況

項目	○確かな学力をもとにした探究的な学習の実現(継続)	○多様性を尊重する豊かな人間性の育成(継続)	○自分自身が思い描く未来を実現できる人材の育成(新規)
内容	○「先生は課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取りっている。」「授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。」を90%以上にする。 ○「先生は映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」を90%以上にする。	○「学校生活は楽しい」を90%以上にする。 ○「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」を90%以上にする。 ○「友達に対して思いやりをもって接している。」を80%以上にする。	○「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」を80%以上にする。
結果	達成 それぞれ95.6%、96.9%、93.9%となり、目標を大きく上回った。	達成 それぞれ90.6%、90%、92.2%となり、目標を達成することができた。	一部達成 それぞれ、73.8%、93.7%83.9%となり、一部達成できなかった。
考察・改善	高い水準で目標に達成できた。タブレットの活用がさらに日常の授業で文房具のように利用できることを想定していく。また、探究的学びにつながる授業改善を進める。	高い水準であり、明るく楽しい学校作りを引き続き進め。スローガンでもある「信頼と思いやり」への意識をさらに高める。	昨年度に比べて数値が上がり続けている。職場体験の再開に伴い、1年生の「Catch your dream」の取り組みなど進路に関する学習を進めるとともに、キャリア・パスポートの活用を進める。

項目	生活指導について(継続)	地域連携の充実(継続)	ＩＣＴ活用教育実践校の推進(新規)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「私は学校での過ごし方やのルールについて考えて行動している」と思う生徒を90%以上にする。 ○「私は自分から進んであいさつをしている。」を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域との連携について」の各設問の肯定的評価を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の思考力を高める授業開発・ＩＣＴの活用・授業改善に努め、研究授業・研修会を年3回以上行う。
結果	<p>達成 ルールについては94.3%（前年度91.2%）で数値を上回った。あいさつについても90.9%（前年度88.4%）で目標数値を上回った。</p>	<p>達成 すべてにおいて60%（前年度50%台）を超えることができた。</p>	<p>達成 全教員で、それぞれ1回以上授業公開を行い、研修会も3回以上行うことができた。</p>
考察 ・ 改善	目標を達成できたので、本校の良さとしてさらに継続していく指導を続ける。	ボランティア活動など少しずつ再開したことが上向きの数値としてあらわれた。さらに、情報発信を行う。	引き続き生徒の探究的な学びとＩＣＴを活用した授業を開していく。

令和4年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立瀬田中学校 関係者評価委員会
委員長 横須賀 清美

【生徒】

1. 学習指導について	いずれの項目でも満足度の高い数値になっており、また、全ての項目について向上している。ほとんどの項目で90%の満足度を生徒が感じているということは、多忙を極める中で、日頃の先生方のご尽力の賜物であると感じる。
2. 生活指導について	今年も特に大きな変化もなく、生徒たちの自己評価も満足度が高い。敢えて気になる点としては、学年を比較したときに2年生の評価数値が低いように思えた。
3. 学校行事について	生徒たちの期待度から「楽しい」「充実感がある」の評価が高く、学校方針としてできる限りの行事を行う姿勢が生徒たちの評価に表れていると考えられる。
4. キャリア教育について	一昨年度のレベルまで回復している。先生方が情報提供とともに、キャリア指導と教科との関連性を生徒に考えやすくなる道筋をつけてくださっていることが数値に表れている。その反面、自身の目標や行動が見いだせていない可能性も考えられる。
5. 部活動について	昨年に比べ若干評価は上がっている。他校との交流試合や行事への参加率が影響しているのではと考えられる。部活動が再開されても未だコロナ禍下で十分に行えなかつたことなども踏まえ、今後さらに分析を深める必要があると考えられる。
6. 先生について	指導に関しては満足度が高い。学習に対する評価やそのポイントを裏づけるものとも言える。“相談しやすさ”の面からは生徒たちの期待とコミュニケーションを求める姿勢が表れており、ポイントの上昇は先生方の努力の結果とも感じられる。
7. 学校全般について	満足度の高い評価である。何よりも生徒たちが学校へ行くことが楽しみの一つとして感じられる瀬田中学校はとても素晴らしいと言える。
8. 学校独自項目	「思いやり」をもって接しているという項目が9割近く占めているのは、学校のスローガンでもあるように「信頼と思いやり」が言葉だけでなく実態を伴って生徒に浸透しているのだと感じられる。図書室の利用も昨年に比べ大きく伸びている。

【保護者】

1. 学習指導について	学校公開など授業を実際見た上での評価と思われる。また、プリントやタブレットなど生徒にしか見えない部分もあることから保護者に授業の様子を十分理解することは難しいのではないかと思われる。
2. 生活指導について	昨年度に比べ大きな変化はないが、3学年を比較すると2年生のポイントは低い。生徒たち自身が指導を納得していることも併せて考えるとご自身の子供たちの自覚に対応した結果と考えられる。
3. 学校行事について	昨年と同様、満足感・達成感は9割近くの数値が出ている。それだけ、教員への期待感は大きいと受け取れる。ただ、この項目でも2年生保護者の評価は他学年と比べると低い点が気になる。
4. キャリア教育について	キャリアパスポートの目標については、他の項目に比べて低いものの、改善が見られる。また2年生に対しては、具体的な進路情報などの発信が必要と感じた。
5. 部活動について	昨年度とあまり変化はないが、部によっては活動に力が入っていることもあり、総合の数値だけでは判断が難しい。
6. 学校運営について	学校運営に関する問題は、なかなか理解されるのは難しい。コロナ禍で行事が縮小していることもあり、今一度情報提供の場を設ける必要があると考えられる。
7. 教職員について	学年によってばらつきが見られるが、教師に対して生徒からの信頼度がより増すことで、保護者も以前の距離感に戻っていくことが期待される。
8. 学校からの情報提供について	学校の努力が認められる。学校行事や公開授業など、今後学校に来校できる機会が増えていけば、さらに評価も上がってくるのではないか。
9. 地域との連携について	地域との連携行事が増えているれば、もっと評価は上がっていくと思われる。ボランティア活動等、子供たちの参加しやすい環境を提供できるように工夫が必要かもしれない。
10. 学校の安全性について	本校だけでの課題にするのではなく、区や都との連携も重点に考えていきたい。それを踏まえて、防災意識も含めて学校の安全指導が見えているだけに、災害時の対応にもこれまで以上に信頼を寄せられるのではないか。
11. 学校全般について	生徒からの学校生活が楽しい、達成感があるといった高い評価が、子どもたちの活動として保護者に具体的に伝わっていることが、「教育活動が子どもの成長につながる」として見られる。保護者からの信頼感の高さを裏づけることになっている。

12. 学校独自項目について	来校希望の高さから、子どもたちの学校での様子に高い関心を寄せていることがわかる。またご自身のお子さんのおかわりにも目を向けています。
----------------	--------------------------------------------------------------------

【地域】

1. 生活指導について	多方面でのボランティア活動の実施が再開されたことによって、今後、生徒たちの活動を具体的に目にする可能性があるので数値が上がっていくのではと推測される。
2. 学校行事について	行事内容に対する関心の高さから、地域への配慮という点からも1と同様に生徒のボランティア活動の参加率によって、来年度はもっと数値が上がっていくのではと推測される。
3. 学校運営について	コロナ禍で発信の機会が減少しているにも関わらず、8割近い評価を受けている。引き続き取り組みを続けていくことが望ましい。
4. 学校からの情報提供について	地域の学び舎に対する認識の向上は、今後の地域とのつながりを強める上で、貴重であると考える。
5. 地域との連携について	保護者の評価よりも高いことから、関心と期待度の高さが伺える。今後も一層の連携を期待したい。
6. 学校の安全性について	学校との協力に問題性を感じている。これは前項の「連携」とも関わっていると考えられるので再度検討が必要ではないか。
7. 学校独自項目について	昨年同様、来校する機会が少ないので、数値は低評価。今後も継続的な取り組みに期待したい。

【まとめ】

現在の瀬田中学校は概ね成功している理想的な学校と言えるのではないかと強く感じます。この結果は、今の管理職の先生のリーダーシップによる成果であると思います。何より重点目標を高評価でクリアしていることから、学校の取り組みを最大限評価してよいと考えます。

未だコロナ禍ではありますが、今後の教育活動を考える上で、以前行われていたことを見つめ直す機会もあります。必要なこととそうでないことを取捨選択しながら、子供たちにとってより良い環境を目指し、学校・保護者・地域が一丸となって魅力ある学校づくりに取り組んでいければと思います。

以上、瀬田中学校関係者評価委員会としてご報告いたします。

令和4年1月10日

委員長	横須賀	清美	元保護者
委員	岩崎	敬道	東京都市大学 名誉教授
委員	齋藤	雅英	日本体育大学 准教授
委員	名川	志信	卒業生 元PTA会長
委員	上條	直之	在校生保護者
委員	外山	美麗	在校生保護者

令和5年2月8日

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立瀬田中学校
校長 本橋 智博

令和5度に向けた改善策 (学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

本校学校関係者評価委員長、横須賀清美様より、令和4年度の学校関係者評価結果の報告と提言をいただきました。報告と提言をいただくにあたり、委員長及び委員の皆様には、学校評価の分析をふまえ、3年間続けてきた新型コロナウイルス対応状況下であることを考慮していただきながら、さまざまな視点からの評価等についてご協議いただきました。今年度も本校の教育活動について肯定的な評価を多くいただきとともに、改善を図る点についての提言もいただきました。報告と提言を踏まえ、令和5年度に向けての改善策を作成いたしました。

1 次年度に向けた改善策

	校長として次年度に向けた改善策
① 学習指導	生徒の肯定的回答はすべての項目で前年度を上回り、5項目中4項目で90%を上回り、1項目も85%を上回る高い水準となった。保護者については60%台の数値となっている。ICT活用教育実践校としての授業改善が進んだことが一つの理由と考えられる。『全ての項目について向上している。ほとんどの項目で90%の満足度は、多忙を極める中で、日頃の先生方のご尽力の賜物と感じる。』と評価をいただいた。さらに主体的学び、探究的な学びを進める授業改善をしていくとともにICTの活用をさらに進め自ら学びを追求する授業を展開する。
② 生活指導	生徒の肯定的回答はすべての項目で前年度を上回り、90%を超えるが、保護者の評価は若干下がったが、生徒が納得できる指導は継続されていると考える。『生徒たちの自己評価も満足度が高い。敢えて気になる点としては、学年を比較したときに2年生の評価数値が低いように思えた。』と評価された。確かに学年を見ると例年2年生の評価が低めに出るが、注視して指導にあたる必要があると考える瀬田中スローガン「信頼と思いやり」、あいさつ、タブレット使用3原則、服装を考える日、など、わかりやすい目標を掲げ、引き続き丁寧な指導をしていく。さらに、再開させる行事を通じて豊かな人間性を育んでいく。
③ 学校行事	生徒はすべての項目で、保護者も3項目中2項目で90%を超える高い評価となった。今年度も予定したすべての行事を実施するとともに、職場体験やボランティア活動を再開させたことも生徒からは肯定的にとらえられたかと思われる。『生徒たちの期待度から「楽しい」「充実感がある」の評価が高く、学校方針としてできる限りの行事を行う姿勢が生徒たちの評価に表れていると考えられる。』と評価された。新型コロナウイルスの対応下でも学校行事の実施を基本方針とする。そのために、柔軟性のある計画、安全への配慮を適切に行い、保護者の理解を得られるように、十分な情報提供をしていく。
④ 進路指導	二年生の職場体験学習を再開させ、一年生の「Catch the dream」の取り組みなどを通じて肯定的評価が80%を超えて上がっている。『先生方が情報提供とともに、キャリア指導と教科との関連性を生徒に考えやすくなる道筋をつけてくださっていることが数値に表れている。その反面、自身の目標や行動が見いだせていない可能性も考えられる。』と評価されキャリアパスポートの目標についての項目が70%台であることが指摘されている。一人一人に寄り添った進路指導を展開するとともに、キャリアパスポートの活用を丁寧にすることでさらに改善を図りたい。引き続き進路指導のもつ意味を浸透させるとともに自身の将来について考える機会を増やしていく。保護者については、進路学習について情報提供するとともに進学指導というニーズにも丁寧に応えていくことで、進路指導前半の理解を深める。進路説明会への1・2年生の保護者参加も再開する。

⑤ 部活動	<p>8割を超える生徒が肯定的評価をしている。自主的な取り組みを増やし、自己肯定感を高められる活動を行いたい。厳しい練習の先にある充実感も味わせるバランスが大切だと考える。保護者の数値は70%台であるが、生徒の充実感が保護者に伝わると考える。『部活動が再開されても未だコロナ禍下で十分に行えなかつたことなども踏まえ、今後さらに分析を深める必要があると考えられる。』と評価された。コロナウイルスの影響を最低限にした活動で充実した部活動を展開する。</p>
⑥ 教職員について	<p>生徒は昨年度に比べ数値は上昇し丁寧な指導は96%に対している。それに対し、数値は上がっているものの相談しやすさは70%台である。保護者においては両方が70%台である。『指導に関しては満足度が高い。学習に対する評価やそのポイントを裏づけるものとも言える。“相談しやすさ”の面からは生徒たちの期待とコミュニケーションを求める姿勢が表れており、ポイントの上昇は先生方の努力の結果とも感じられる。』と評価された。生徒については引き続き丁寧な指導を重ねる中で、相談しやすい環境を育てられれば良いと考える。保護者についてはその悩みを的確に把握しながら、時機を逃さずコミュニケーションをとるということ、第三者面談や保護者会での関わりを大切にしながら相談しやすい関係を作っていく。</p>
⑦ 広報情報提供	<p>保護者は75%、地域は68%とまだ上昇できると考える。昨年度より数値が保護者は下がったが、情報発信量は変わっていない。『学校の努力が認められる。学校行事や公開授業など今後増えていけば、さらに評価も上がってくらのではないか。』『地域の学び舎に対する認識の向上は、今後の地域とのつながりを強める上で、貴重であると考える。』と評価されたのでさらに一步前進した形で学校を開いていくことで、学校の状況を知っていただけるようにするとともに、引き続き「すぐーる」の活用、ホームページ、学校だより、学年だより、学級だよりで情報発信を行う。</p>
⑧ 地域との連携	<p>保護者、地域とともに60%台ではあるが評価は向上した。コロナ禍の影響は引き続きあるが、地域へのボランティア活動を少しであるが再開したことなどが良かったと考えられる。『地域との連携行事が増えているから、もっと評価は上がっていくと思われる。ボランティア活動等、子供たちの参加しやすい環境を提供できるように工夫が必要かもしれない。』『保護者の評価よりも高いことから、関心と期待度の高さが伺える。今後も一層の連携を期待したい。』と評価された。地域とのつながりを維持できるボランティア活動を中心に教育活動を展開する。地域に支えられる部分は非常に大きく、生徒にそれが伝わるような指導を展開する。</p>
⑨ 学校安全	<p>保護者、地域ともに数値が下がり、それぞれ、70%台、60%台である。『本校だけでの課題にするのではなく、区や都との連携も重点に考えていきたい。それを踏まえて、防災意識も含めて学校の安全指導が見えているだけに、災害時の対応にもこれまで以上に信頼を寄せられるのではないか。』『学校との協力に問題性を感じている。これは前項の「連携」とも関わっていると考えられるので再度検討が必要ではないか。』と評価された。地域との防災訓練が行われていないことが一つの大きな原因だと考えられる。その再開に全面的に協力するとともに中学生がかかわる形を考え、また、区のかかわりを強く求めていく。</p>
⑩ 全般	<p>「学校生活は楽しい」が90%と今年度も高い評価となった。「達成感がある」と感じている生徒も引き続き80%を超えた。「思いやり」の数値も90%を超えており、スローガンの浸透を感じさせる。学び舎に関しては、あいさつ運動の再開が若干数値を上げたと考える。『満足度の高い評価である。何よりも生徒たちが学校へ行くことが楽しみの一つとして感じられる瀬田中学校はとても素晴らしいと言える。』と評価された。高い数値をさらに伸ばすため、生徒が明るく元気で楽しく通える学校づくりを進めるため、教育活動全般について前向きな判断をしていきたい。引き続き「信頼と思いやり」、「あいさつ」を大きな柱に据えて明確な取り組みしていく。小学校と連携を取りながら学び舎としての教育活動を再開する。</p>
⑪ 学校独自項目	<p>全体的に90%以上の評価が1項目から3項目に増えた。意見交換の場が設定されそれが学びにつながっていることを生徒が実感しており、授業改善の成果がここにも表れている。『「思いやり」をもって接しているという項目が9割近く占めているのは、学校のスローガンでもあるように「信頼と思いやり」が言葉だけでなく実態を伴って生徒に浸透しているのだと感じられる。図書室の利用も昨年に比べ大きく伸びている。』『来校希望の高さから、子どもたちの学校での様子に高い関心を寄せていることがわかる。またご自身のお子さんの他者とのかかわりにも目を向けています。』と評価された。「信頼と思いやり」を大切にした指導を引き続き行う。また、図書館の活用については委員会活動や授業を通じて司書と連携しながらその活用を図る。保護者についてはさらに学校の開放を進めることで理解を深めていく。</p>

2 まとめ

世田谷マネジメントスタンダードの学校評価システムに基づき、学校自己評価、学校関係者評価を行いました。今年度はWEBアンケートでの学校評価となりました。回答率が生徒86.5%（前年度96.5%）、保護者79.6%（前年度92.1%）、地域が43.9%（前年度66.7%）となり、若干下がったことがどのように影響したかは不明である。来年度は回答率を上げる取り組みも必要だと考えています。少しでも多くの声を反映できる学校評価にしたいと思います。

今年度の評価も全体的に高い評価を頂けたと思っています。学校、保護者、地域が瀬田中を愛し、瀬田中の生徒を愛していることが表れる評価だったと自負しています。学校評価委員会からも『現在の瀬田中学校は概ね成功している理想的な学校と言えるのではないかと強く感じます。』というとても心強く、温かい評価をいただきました。この評価におごることなく地道な教育活動を進めていく覚悟です。教育活動が制限されてきた3年間ですが、いよいよその制限も外れる時が近づいています。評価が上がらなかつた項目の評価を上げていく機会になるとも思っています。前向きな教育活動を地域、保護者の皆様とともに進めていく瀬田中の本領発揮の機会ととらえ前進していきます。昨年度課題の一つであった教職員の自己評価での校長のリーダーシップについても改善できたこともご報告したいと思います。本校のすばらしさを教職員にも自覚させながら、前進する瀬田中学校を目指し教職員とともに教育活動を進めてまいります。今年度も生き生きと活動する生徒のすがたは多く見られました。一方アンケートでは現れない数値ですが、学校に足が向かない生徒もいます。少しでも瀬田中の良さを感じ、エネルギーを蓄え、一歩進んでいけるように見守り、サポートしていくことも課題としていきたいと思います。

今年度も、多くの保護者の方々、地域の皆様に、アンケートのご回答にご協力をいただき誠にありがとうございました。また、学校関係者評価委員会の皆様には、温かく的確な評価をしていただきましたことに心より御礼申し上げます。アンケート結果、学校評価委員会の評価を受け止め、次年度に向けての改善策、前進策を着実に実施し、一歩進んだ教育活動を展開してまいります。「信頼と思いやり」のスローガン、「あいさつ」の響く学校、を合言葉に「思いやりと、優しさのある生徒」「前向きな姿勢で学び、何事もやりぬく生徒」「正直さ、素直さを大切にする生徒」を育てる瀬田中学校の教育活動を引き続き展開し、地域の皆様、保護者の皆様とともに愛される瀬田中学校づくりを進めてまいります。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の生徒の健全育成に向けて、ともに歩んでいただけますよう、学校の応援団になっていただけますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年2月6日

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立瀬田中学校
校長 本橋 智博

前年度の改善方策について実施した改善結果

前年作成の「令和4年度に向けての改善方策」について、校長としての自己評価は以下のとおりです。

	前年度に作成した 「4年度に向けての改善方策」	自己 評価	改善結果についての校長としての自己評価
学習指導	授業改善を滞らせるこなく進め、探究的な学び、主体的な学びを深めていく。保護者の数値が低くなっていることについては、学校公開ができる限り実施するとともに、情報提供を丁寧に行う。また、授業開始と終わりの「本時のねらい」「まとめ」の実践を継続し、タブレットを活用した授業実践、授業と評価の一体化を着実に進め、教える授業から学ぶ授業への転換を図る。	△	学習指導にかかわる生徒5項目、保護者4項目において、生徒の肯定回答率の平均は93.7%（前年度90.7%）、保護者は66.6%（前年度68.6%）であった。ねらいの徹底、タブレットの活用など授業改善を進め、生徒の評価は上がっている。保護者の求める水準は高いことを認識し、授業公開の中で、改善が伝わるように工夫すること、評価評定の理解を進めることができると考える。
生活指導	瀬田中スローガン「信頼と思いやり」を根底に据えた生活指導、タブレット使用3原則、服装を考える日の活用、など、生徒自身がルールやマナーを考える指導を中心に引き続き考えさせる生活指導を目指し、理解を深める。落ち着いた学校生活を目標に、新型コロナウイルス感染症の影響下であるが、人間関係を深める教育活動を展開する。保護者にも学校の安定した生活状況が伝わるように情報発信をする。	△	生活指導にかかわる生徒3項目、保護者2項目において、生徒の肯定回答率の平均は92.2%（前年度90.2%）であり、保護者の平均は76.9%（前年度79.1%）であった。瀬田中スローガン、タブレット3原則、服装を考える日など、わかりやすい形で生徒への浸透を図った。その中で、生徒自身の評価は高いものとなった。保護者においてはさらに学校公開など生徒の様子がわかる機会を増やすことが必要である。
学校行事	生徒の笑顔は学校のエネルギーとなる。学校行事ができた時の達成感、充実感を大切に、いかにして各行事を実施するかを考え、引き続き新型コロナウイルスの対応下でも学校行事の実施を基本方針とする。そのために、柔軟性のある計画、安全への配慮を適切に行い、保護者の理解を得られるように、十分な情報提供をしていく。	○	学校行事についての3項目において、肯定回答率の平均は生徒93.4%（前年度91.9%）、保護者89.7%（前年度89.9%）であり、今年度も高い数値となった。運動会、合唱コンクール、修学旅行、移動教室を工夫のもと実施できたことに加え、職場体験学習などの再開も評価につながったと考える。さらに内容の充実を図り、日常の中の行事として運営できるよう、ようく工夫をしていきたい。

進路指導	まず、総合的な学習の時間も含め、キャリアパスポートの活用を意識して行う。また進路学習という観点で、自己理解や職業調べが自分自身の将来につながる学習だということを伝える。また、進学という観点もより具体的に情報を提供をする。保護者についても、進路学習について学校だより、学年だよりなどを通じて情報提供する。自分の生き方を考えていく進路指導という方向性を保ち、3年時の進学指導の要素につながる情報は1,2年時から伝えられるようにする。進路説明会への1,2年生の保護者参加が再開できるようにしたい。	○	生徒の肯定的回率の平均は83.8%（前年度71.4%）、保護者では64%（前年度60.5%）と上昇した。キャリア教育、進路指導とは何かを周知するとともに、職場体験などを再開したこと大きい。さらに、キャリアパスポートの活用を念頭に、進路学習、進学指導とともに生徒、保護者のニーズに応え、情報提供を進めていくことが必要だと考える。次年度は進路説明会の1,2年生の保護者への参加を一部再開したが、さらに拡充し、情報提供を丁寧に行いたい。
部活動	生徒が主体的に活動できるよう指導を進めるとともに、いかにして活動を続けるかという観点で、感染対策をしながら、できる限り、活動を止めることなく継続する。活動を続けるためにどうするかを生徒にも考えさせる。	○	肯定回答率の平均は生徒80.1%（前年度77.9%）、保護者74.7%（前年度78.1%）であった。活動を止めることなく進むことができた。さらに生徒が主体的に取り組む部活動を推進し、今後の地域移行にも備えていきたい。
学校運営		△	学校運営としての項目は保護者63.7%（前年度67.3%）、地域77.8%（前年度70.0%）となった。学校経営方針、経営計画の周知に努めていく。
教職員について	教育相談期間を有効に活用する。学校生活の様々な不安について教育相談的な対応をいつもできるようにすることで、相談しやすい雰囲気づくりに努める。また、スクールカウンセラーや支援員への相談もできる雰囲気を作り、教職員全員が生徒の相談にいつでも乗る雰囲気の醸成を図る。	△	生徒の「先生は、生徒にていねいに指導している」の肯定回答率は96%（前年度93.3%）、「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の肯定回答率は、78.2%（前年度72.9%）であった。 保護者の「本校は、丁寧に指導している」の肯定回答率は75.9%（前年度80%）、「本校は、子供や保護者が相談しやすい」の肯定回答率は72.2%（前年度78.4%）であった。生徒の肯定的評価が上昇している一方で、保護者の評価は停滞している。様々な課題を保護者とともに丁寧に解決していく。
広報・情報提供	公開はできなくても行えた活動については丁寧に情報公開していく。「すぐーる」の活用も本格化し、メールでの情報提供も保護者についてはさらに迅速にできるようにしていく。引き続き新型コロナウィルス対応で、不明な部分は増える	×	肯定回答率の平均は保護者75.8%（前年度80.5%）、地域68.1%（前年度68%）である。両者とも「学び舎」に関する数値が低くなっている。情報発信の手段はそれぞれ活用しているが、学校公開、道徳地区公開講座などを地域へ再開することが

	であろうが、ホームページやメール、学校だより、学年だより、学級だより、すぐーるで情報発信をしていく。		必要だと考える。ホームページをさらに活用していくとともに、外へ出ることを考えたい。
地域との連携	地域との交流が2年間にわたりほとんどできていないことが課題となっている。少しでも地域とのつながりを維持できるように教育活動を展開する。学校運営委員会や、地域支援本部の活動はコロナ対応をしながら行っていたいている。地域に支えられている部分は非常に大きく、学校だよりなどを通じて活動が保護者、地域に伝わるようしていく。	△	肯定回答率の平均は保護者60%（前年度55.5%）、地域64.9%（前年度50.7%）である。少しずつ地域との活動を再開したことがプラスの評価につながったと考える。学校運営委員会や地域支援本部の活動を学校だよりを通じるなどして情報発信をし、地域へのボランティア活動を再開していく。
学校安全	学校安全にかかわる活動は方法を工夫して実施するようにする。新型コロナウィルス対応などに関する安全性については非常に厳しい状況ではあるが、手洗い、消毒、マスク、換気など基本的な対応を適切に行う。地域の防災に関する活動は協力して可能な部分は参加する。	△	肯定回答率の平均は保護者75.6%（前年度81.9%）、地域69.5（前年度76%）である。具体的な災害を提示した情報提供が必要であり、地域の防災訓練が再開することに合わせて、協力して活動することが肝要である。
全般	高い数値に満足せずに、生徒が明るく元気で楽しく通える学校づくりを進める。90%を限りなく100%に近付けるために丁寧な指導と積極的な教育活動を進めていく。「信頼と思いやり」の学校スローガン、「あいさつ」を大きな柱に据えて教育活動を展開する。「学び舎」については可能な限り活動を再開できるように小学校と連携を取りながら教育活動を展開するとともに、教員同士の連携が取れるようにする。	△	「学校生活は楽しい」は90.6%（前年度87.4%）になった。積極的な教育活動の推進と分かりやすい指導が生徒に伝わっていると考える。生徒の「学び舎」の交流は教職員の研修を再開し、あいさつ運動も実施した。生徒の肯定的評価は75.7%で保護者の肯定的評価は73.1%（前年度64.4%）であった。学び舎や地域行事、学校公開の数値が低くなっている。それぞれ実施の機会を探っていく。
学校独自項目	三者の共通項目「あいさつ」については三者とも80%以上、を目指し、教員、生徒一体となった活動を推進する。生徒会、委員会、部活動を通じてあいさつの機運をさらに高める。保護者来校の機会については学校公開の再開など、人数や様々な対応をして進めていく。地域についても可能性を探り、情報発信はもちろん実際に学校が開かれるように工夫していく。	△	独自項目で生徒の5項目の肯定的評価は84.0%（前年度78.5%）保護者の5項目は78.1%（前年度75.0%）地域の1項目は66.7%（前年度72%）であった。共通のあいさつについては77%（前年度78.9%）だったが、生徒の数値は90.9%で高いものとなった。「信頼と思いやり」とともに重点的に指導をしていく。